

# ひと あい えどがわ

No.30

発行日 / 2015.11.1

創刊日 / 2007.4.10


**EDOGAWA**  
 SINCE 2004  
 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

## 創刊 30 号記念座談会 歴代編集長に 聞く



新長島川親水公園【写真：まち11期 加藤】

### 12期生の皆様、ご入学おめでとうございます

10月7日（水）篠崎文化プラザにて入学式が行われ、95名の方が江戸川総合人生大学に入学されました。北野学長や学科長よりお祝いの言葉をいただき、多田区長からは励ましの言葉を頂戴しました。

また新入生を代表して子ども・子育て応援学科の土岐光子さんが抱負を述べました。

これからの2年間、充実した学生生活を共に過ごし、地域貢献につなげていきましょう。

#### 27年 江戸川総合人生大学 入学式



北野学長の式辞



新入生代表の抱負



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）





# 創刊30号記念座談会

## —『ひと あい えどがわ』とは何か—

日時：平成27年8月24日(月)

場所：篠崎文化プラザ講義室

出席者：島田久市(まち2)、小谷勝彦(子ども6)、井上眞(まち7)、土井芳夫(国際8)、峯岸和英(国際9)

司会：佐々木康次郎(介護10・現編集長)

### 「ひと あい えどがわ」はこうして生まれた

**司会** 「ひと あい えどがわ」は今年の11月号で30号を発行することになります。つきましては、歴代編集長の皆さんにお集まりいただき、今までを振り返りながら、今後を展望するようなお話が伺えればと思います。

まず、初代編集長の島田さんから発行に至る経緯などをお聞かせ下さい。



佐々木

**島田** 創刊号から6号までを担当しました。始めは編集長という言い方はせず、取りまとめという役割でした。当時の大学の事務室長から、人生大学と区民とを結ぶツールを作りたいと相談を受け、情報紙発行の検討に入りました。

人生大学の広告塔として、区民にかかわらず多くの人に、人生大学はこんなところだよ、こんな素晴らしいところだよということを知ってもらおうという感覚で発行することにしました。情報紙のタイトル「ひと あい えどがわ」は、第一回の大学祭の標語だったものをそのまま採用しました。



島田さん

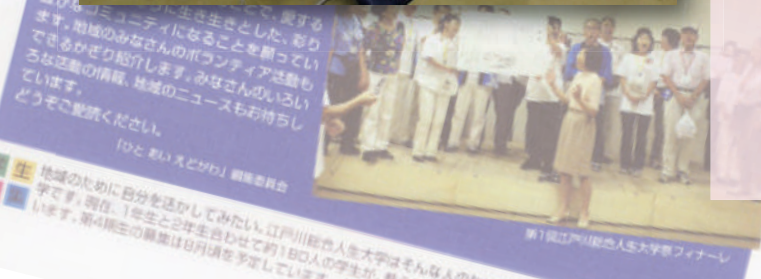
### 「ひと あい えどがわ」編集への思い

**司会** 皆さんが発行に携わった時のご苦労や編集への思いなどについてお聞かせ下さい。

**島田** 発行への使命感があり、区民と人生大学を結びつけるという思いが強かったですね。なにせみんな初めてのことで、印刷はどこに頼むのか、費用はどうなのかいろいろ決めなければならないことがありました。実は、1号と2号では印刷屋さんが違うので比較すると少し色合いが違ってきます。

4号から、記事には取材者の署名を載せることにし、発行者としての責任を意識してもらうことにしました。印刷以外は全て学生の手により作り上げる、そのためには、取材先への気遣い、執筆した記事の内容は取材先に必ず了承を得る、編集委員会では、事務局も含めてお互い共通の認識を持つまで、とことん議論するようにしました。

発行部数は創刊号は2000部でしたが、それでは足りないということで次の号から3000部に増やしました。





# 歴代編集長に聞く これからどうあるべきかー



小谷さん

**小谷** 16～18号を担当しました。各委員が知恵と力をもって作り上げました。初めて三つ折6ページを採用したり、「江戸川を知る」というタイトルで、江戸川の歴史について学芸員の方などから寄稿いただきシリーズ化したりしました。これは大変面白く、自慢のできる内容でした。

私が担当している時に、井上さん(次の編集長)に加わっていただき、プロの観点で紙面づくりを改革することができ本当に感謝しています。

とにかく、読みやすいもの、手にとって読んでもらえるもの、配布先でも目立つようにしようと心がけました。そもそも情報紙を知らない人がほとんどだったので、表紙にインパクトを持たせるよう工夫しました。記事についても、活字を読むのではなく、目で見て分かるように写真を多く活用しました。

**井上** 19～21号を担当しました。デザインの仕事をしていた関係から、結構自由に意見を述べさせていただき、自分の思いを多少なりとも実現できたことは楽しい思い出です。

仕事から、この情報紙をもっとたくさんの不特定多数の人に読んでもらいたい、潜在する入学予備軍の人が手に取って見ることを意識して編集してきました。

表紙に江戸川区内の様子を使い、柔らかみがあり「見てみようかな?」という気にさせる情報紙にしたいと考えました。現在も、表紙の写真がそのコンセプトで続いていることは大変嬉しく思います。



井上さん 期生アンケートより

**土井** 22～24号を担当しました。プロの後を引き継ぐ素人集団としてはグループ力を発揮するしかないと思い、編集委員会のスケジュールを最初に立て皆が参加しやすくしました。グループで記事を担当し、数人で取材に出かけ記事をまとめていきました。紙面は少し変わりましたが何とかやってこれたかなと思っています。

内容については、卒業生の活動紹介、こんな魅力的な講師、面白い講義がありますよという大学の授業の紹介、もう一つは学生自身が大学で学んだことの振り返り、以上3つの柱で構成しました。

**峯岸** 25～27号を担当しました。情報紙としてはかなり骨格が固まっていた。委員の中に経験者がいなかったこともあり、新しいことをやろうというより、先輩方が築いた歴史をどう引き継ぐかということが課題でした。

また、ちょうど人生大学が10周年だったので、これを取り上げない手はないなということで、情報紙と一緒に盛上げようと企画を作りました。他の学科の先生にインタビューしたりしたことは、新たな学びの場になりました。

## 「ひと あい えどがわ」のこれから

**司会** 情報紙が今後担うべき役割についてお話しください。

**島田** 学生向けの切り口が多く、外に人生大学をPRする内容になってない、独りよがりな記事が多々あるように感じます。ボランティア活動をもっと紹介するとか、「何を見て入学しましたか?」といったアンケートをとるなど工夫し、編集に当たってほしいです。また、区の広報紙への情報紙発行の記事掲載も考えられるのではないのでしょうか。







**小谷** 「ひと あい えどがわ」のデザインやタイトルそのものを変えようとしたこともありましたが、やはり情報紙は継続的デザインで出していくことに意味があると思い、そのまま発行を続けました。

また、このような話し合いの機会を設けることは大変重要であり、今後につなげるためのいい機会を与えていただいたと感謝しています。

**井上** デザインが古く幼稚な感じがするというのでアイデアを出したんですが、まだ創刊して16号くらいだったのもう少し使いたいということで見送ることになりました。

今までの情報紙を見ると、記事の切り口にそれほど変化がない、独りよがりというか、内向きな内容になっています。初めて手に取る人が「何、これ?」というインパクトのあるもの、人生大学のことを一般の人に理解してもらえるような記事を企画できるかが求められていると考えます。一年に3回の発行だと、どうしても大学の行事に合わせた内容に固定化されてしまうので、もう一号発行できるとオリジナルな内容を書けることができるのではないか、その辺を今後トライしてみたいと思っています。

人生大学唯一の定期的宣材物としての情報紙が、どれ程の効果があるのかも知っておく必要があります。これを読んで入学者が殺到するくらいのPR紙になってもらいたい、学生募集に苦労しているのは情報紙の責任も少しあるのではないかと思います。



土井さん

**土井** 編集の専門家ではない在学生在が力を合わせて取り組むことは大きな意味があると思っています。ただ残念ながら、知られていない、読まれていないのが現状です。配布先ごとの消化率を把握することや、読者の声を取り入れるなど、読んでくれた人がどう感じたかを知る仕組みをつくり改善につなげていく必要があると思います。

**峯岸** 先日、大学の入学案内と一緒にこの情報紙がラックに刺さっているのを見かけましたが、何かとコラボして情報紙を活用することも必要なことだと感じました。公的な建物だけでなく、知り合いの店にも置いてもらえるようになると更に良いPRになりますね。

『広報えどがわ』というのがありますが、この情報紙「ひと あい えどがわ」はまた違う意味での公的発行物としての役割を担っているわけで、みんなでアイデアを出し合って良いものを作り続けてほしい、人生大学への入学をすすめるようなものであり続けてほしいと思います。



峯岸さん

## 歴代編集長の熱い思いを受けて

**司会** 貴重なご意見をありがとうございました。皆様のご苦勞と熱い思いが伝わってまいりました。今後の編集にあたっての重い示唆をいただいた気がします。よりよい情報紙のための紙面作りに生かしていきたいと思います。



# 第10回江戸川総合人生大学祭

第10回江戸川総合人生大学祭は平成27年7月25日(土)10時から16時まで、タワーホール船堀に於いて行われた。地域の方や同窓会の方々も多く参加され大盛況となった。

会場は1階メインステージと展示・体験コーナー、3階同窓会によるおやすみ処の3か所。今回は第10回を記念し、みんなで作るメッセージアートなども特設された。

同窓会によるおやすみ処

親水公園プロムナード

前日の展示準備の様子

PCサポートコーナー

介護11期 手芸体験

まち10期 フクロウの置物作り

特設記念企画

スタンプラリー

子ども10期 釣りゲーム

テーマ：

学ぼう、人の和、地域の和  
～生かそうあなたのできることで～

国際11期 クロスカルチャー

来場者数：

823 名



# 大学祭ステージ



子ども11期 妖怪クイズ



学長・学科長トークセッション



同窓会 南京玉すだれ



介護10期 笑いヨガ



歴代実行委員長大学祭を語る



国際10期 世界の言葉



まち11期 江戸川エリアクイズ



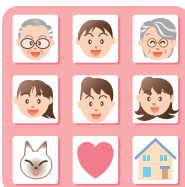
ステージエンディング



同窓会 合唱Gフリージア

ご来場ありがとうございました。  
来年もよろしくお願いします。

## 同窓会の窓



江戸川総合人生大学は先日12期生が入学され、新鮮な気持ちで学びを実践しておられることと思います。同窓会も10期卒業生を迎え、更に充実しました。

今回は、新たに仲間になった方々に活動内容をご紹介します。本同窓会では、卒業生情報の提供や会員同士の親睦はもちろん、在校生や区民の方も一緒に楽しんで頂ける催しを通じ、会員との交流を図っています。また、社会貢献活動に取り組んでいる多くの卒業生のサポートや、在校生・区民の方とのパイ

づくりにも取り組んでいます。紙面の都合で具体例を紹介出来ず残念ですが、定期的に発行している「同窓会だより」や同窓会ホームページをぜひご覧下さい。

同窓会会長 前田 直義（国際9期）

同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>  
人大ボラ連メールアドレス [jindaiboraren@yahoo.co.jp](mailto:jindaiboraren@yahoo.co.jp)

## 編集後記

人生大学12期生の入学とともに、「ひと あい えどがわ」が30号を迎えました。それだけ人生大学と地域をつなぐ情報紙としての歴史を歩んできたわけです。本号では歴代の編集長にお集まりいただき、過去を振り返りながらこれからの情報紙についての座談会を企画しました。その中で温かいアドバイスや厳しいご指摘をいただくことができました。

10期生がかかわっての編集は本号で終わりになりますが、新たなスタートを切る「ひと あい えどがわ」が、今まで以上に多くの方々に手にとってもらえ、読んでもらえる情報紙になることを願っています。

編集長 佐々木 康次郎（介護10期）

## 編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

〔10期生〕 岡部勝、中谷喜美子（まち） 大西正子、塩谷浩（国際）  
五十嵐英男、中村雪子（子ども）  
嘉陽宗善、佐々木康次郎（介護）

〔11期生〕 加藤道雄、叶内元也（まち） 大宮信一郎、柳澤千夏（国際）  
長倉尚子、山内康（子ども） 大野一雄、中村高興（介護）